



国名	マラウイ共和国 (Republic of Malawi)
面積	118,484平方Km (日本の約1/3)
人口	1,756万人, 人口増加率2.9% (2018年: マラウイ国勢調査)
首都	リロングウェ
独立	1964年7月6日
公用語	英語, (国語: チェワ語)
政体	共和制
大統領	ラザルス・チャクウェラ

- Homepage www.japan-malawi.org
- Email info@japan-malawi.org
- Facebook facebook.com/japan.malawi
- Twitter twitter.com/JpMalawi
- YouTube [Malawi Society of Japan](https://www.youtube.com/channel/UC...)

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体。1983年2月26日設立。

入会ならびに会費納入のお願い

当会は、会員が納入する会費により運営を行っております。会の目的、活動内容に賛同される方々のご入会、会費納入をお願い申し上げます。

区分	入会金	年会費	備考
正会員	1,000円	3,000円	
賛助会員	0円	1,000円	郵便物の送付なし
団体会員	3,000円	10,000円	公的・非営利団体
法人会員	10,000円	30,000円	協賛企業

チャクウェラ氏 第6代大統領に

再選挙で野党候補が勝利 民主プロセスで政権移行

マラウイ選挙管理委員会(MEC)は6月27日、同23日に実施された2019年大統領選挙の再選挙で、野党のラザルス・チャクウェラ氏が当選したと発表した。チャクウェラ氏の得票率は58.57%と過半数を超え、現職で与党のピーター・ムタリカ氏の39.4%を上回り勝利した。

今回の再選挙は、19年5月に実施された5年に一度の大統領選でムタリカ氏が勝利したのに対し、僅差で敗れたチャクウェラ氏(35.41%)陣営が選挙に不正があったと抗議。20年2月に憲法裁判所が選挙管理委員会の不正を認める判決を下し、再選挙を勧告していた。チャクウェラ氏は前回14年の大統領選でも、ムタリカ氏と接戦の上敗れた雪辱を果たした。

チャクウェラ氏は首都リロングウェ出身の牧師・教師。今回の再選挙では、得票率が過半数の候補者がいない場合、決選投票が行われる予定だったが、野党連盟を率いて勝利した。混乱が多いアフリカの選挙でやり直し選挙が平和的に行われ野党側の勝利が認められるのは異例。今回の選挙は「司法が大統領権限によって脅かされたり、影響を受けたりすることなく実施された」(英BBC放送)ことでアフリカの民主化に向けた好例と受け止められている。(複数メディアから引用)

【日本マラウイ協会 Malawi Society of Japan】



KWACHA

巻頭言

時代の転換期 ~ 運命を価値に転換する時 ~

野呂 元良 (日本マラウイ協会会長)



山本良一東京大学名誉教授(東大先端科学技術研究センター教授を歴任)は「私は“第二次精神革命”が求められていると思います。第一次の精神革命は、およそ2000年ほど前にありました。農業革命が起き、都市国家が形成される過程で貧富の格差が生まれ、権力関係ができていく。

その結果生じた不条理を解決するために宗教や哲学が生まれ、それが今に至るまで続いている。今、それは人間精神の革命が必要にな

今年6月末で、コロナによる感染者が世界で1000万人を超え、死者は50万人を超えた。戦争(内乱)・疫病・飢饉は、人類を悩まし続けてきた三大災難である。また、「気候変動」の問題も極めて深刻である。人類の生存を保障する地球の生命圏が破壊されれば、経済も社会も、人間存在もないからである。

っている。私はこの10年で人類の運命が決まると思っている。

その重要な鍵を握るのは、青年と科学、そして宗教でしょう」と述べている。2000年ぶりの大転換の時である。コロナ対策は、国家の大小を問わず、すべての国が協力しないと治まらない。グローバルの時代、自国だけの努力では、コントロール不可能である。自国(自分)を守るためには他国(他人)を守る必要がある。

第二次世界大戦前(中)は、「軍事的競争」が世界の主流であった。戦後これまでは、「政治的競争」「経済的競争」が主流を占めている。コロナの世界的な流行に直面している人類は、今や国籍・人種・ジェンダー等を問わず、互いを思いやる「人道的競争」の入り口に立っている。今こそ運命を価値に転換するチャンスである。

日本マラウイ協会員はじめ日本国民全員が結束して、人道的競争の先駆を切っていくべきである。

外交官生活40年と日マ関係を語る講演 野呂会長、松山市で

ピリ カニャーキーソ 荘平 (株式会社フェローシステム・アフリカ事業部)

野呂元良日本マラウイ協会会長が昨年11月2日、愛媛県松山市で「外交官生活 40年の体験と日本マラウイ関係を語る」と題した講演会を開き、外国人を含む経営者、学生ら25人が参加した。講演後は主催者に「人生について考えるきっかけになった」などの感想が寄せられた。会場となったITコンサルティング会社フェローシステムの主催。

講演の概略: マラウイ共和国は独立した1964年から一度も内戦を経験したことがなく、「アフリカの温かき心」と評されています。世界経済フォーラムによると、マラウイは世界の中でも安全性の高い国の一つで、アフリカやその他の発展途上国に多数ある有名な観光地よりも安全とされています。更に、マラウイの人々は見知らぬ人に対する親切度ランキングで世界6位となっています。そして、日本からの青年海外協力隊派遣及び隊員の草の根活動や、インフラ建設などによる援助が功を奏し、親日国でもあります。ただインフラ建設や経済成長はあるものの、いまだ発展の度合では最低ランクにあり、人口のほとんどが一日\$1.25(約¥130)で生活しています。日本のGDPは30年程停滞しており、人口は急激に減少する傾向にあります。後継者不足や労働力不足というような問題が顕在化しているいま、日本の中小企業は企業が持続的な成長をする方法を見つける必要があります。反面、マラウイの人口成長率は2.75%で人口の約20%が実質的には無

職者です。それゆえに、日本とマラウイの二か国間で提携をしていくことはマラウイに雇用を生むということだけでなく、日本の中小企業の国外の新しい「柱」として両国の未来を支えることとなります。長い間技術レベルでトップの座を守ってきたこの国で経済的な低迷があるという事実は世界にとっての損失です。日本人がマラウイの市場に参画し基盤を固めるというのは、日本の国がこれまで培ってきた経験や技術がマラウイの人々に継承されるということでもあるのです。

主催者の感想: 講師の経験からアフリカと日本の関係性や、外交官生活に関して、刺激的でユーモアのあるお話を頂きました。アフリカのことは、距離があることもあり、考える機会は少なく、イメージは先行することもあります。しかし、講演会を通してアフリカ、マラウイのことを感じ、理解出来た方々が多く見受けられました。参加者一人一人のこれからの行動の指針になるようなエッセンスがたくさん入ったお話だったと思います。また、主催者へ、「違う世界のように考えていたことが、新鮮に頭に入ってきた」、「自分の人生について考えるきっかけになった」、「自分の抱えていた悩みが解消した」等の様々な意見が寄せられました。

新大統領へ祝辞

野呂会長と側嶋理事は7月7日午前、在京マラウイ大使館に訪問し、バンダ大使、ナマサス副大使と面談、チャクウェラ新大統領就任に対する祝辞を手交、今後の二国間の交流につき意見を交換した。

『日本とマラウイの関係強化のために～大使の役割～』

柳沢 香枝（前在マラウイ日本大使）

2月29日、市ヶ谷のJICA地球ひろばで、前在マラウイ日本大使・柳沢香枝氏による帰国報告『日本とマラウイの関係強化のために～大使の役割～』が開催され、一般も含め26人が参加した。新型コロナ対策で参加者はマスク着用や手指の消毒をした。講演の概略は以下のとおり。



JICA勤務後、2016年11月～19年12月、在マラウイ大使を務めた。個人的な目標は以下の3点とした。

① マラウイの明るい未来のため、マラウイ人の意識改革を促すこと：日本の大学院を優秀な成績で卒業した留学生

紹介や農業大卒の若者が設立したNGOを草の根無償資金協力で支援するなど、自助努力の大切さを伝えるよう努めた。

② 両国の文化の架け橋になること：既存の柔剣道など武道の大使杯に加え、折り紙や書道を紹介する文化行事を開催し

た。またチテンジエと着物の組み合わせなど両国の文化の融合を推進した。

③ マラウイで活躍する日本人を応援すること：JICA海外協力隊員を公邸に招いて報告を聞き、カムズ国際空港の拡張などの開発協力プロジェクトを訪問、進捗を見守った。

19年の大統領選結果が裁判で無効となり、再選挙が実施される見込みだが、国民が一体になる政府が作れるかが重要。最後に、両国関係を深めるには人と人との関係が重要、また自力で努力するマラウイ人を助け、真の友人であり続けることが大事ではないか。

筆者補足：6月23日に実施された大統領再選挙では野党連合が勝利し、政権交代が行われた。新政権は昨年5月の選挙以来の地域間の深刻な分断の克服や、新型コロナウイルス感染が急拡大傾向を見せる中での感染対策と経済対策のバランスなど、大きな課題に直面することになる。

マラウイ協力隊研究 科研費プロジェクト

マラウイ協力隊研究の「フィールド調査」所感

草苺 康子（東京大学大学院特任研究員、日本マラウイ協会理事）

青年海外協力隊（現JICA海外協力隊）7人がマラウイに初赴任してから来年、50周年を迎える。この間、協力隊がどのような成果を同国に残したかを掘り下げるべく、マラウイ協力隊経験を持つ筆者と、協力隊派遣前研修元講師でマラウイ出身・日本在住のLouis Nthenda博士はマラウイ協力隊研究「アフリカのボランティア事業で支援側・被支援側双方のキャパシティは向上するか？」に着手した。

関係するマラウイ人には聞き取り、協力隊経験者には主にアンケートで変化の有無などを聞く手法をとっている。アンケートは2020年6月時点で240人の回答を得た。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

マラウイ人からの聞き取りの一環で2019年11月～2020

年1月にマラウイ全国13県を訪れ、歴代隊員と関わった方たちから話を伺った。見知らぬ方に「日本人ボランティアに教わった」「一緒に働いた」と話しかけられ、思い出や人生への影響など予定外の「聞き取り」も幾度もあった。

今回マラウイで聞いた話の多くは、少なからぬ元隊員が持つ「力不足だったのでは」という不安を覆すものだった。また元隊員との取り組みからの成果だけでなく、意見対立や苦勞、そこから互いに得たものなど率直な意見や経験談を聞いたのも印象的だった。

50年の積み重ねの中、隊員との関わりがマラウイ人の中に大切な財産や思い出として今なお生きていることは多くの人に知ってほしい。さらなる情報収集と分析を重ね、来年の派遣50周年に向け、研究成果を発信・共有したいと考えている。



[写真：北部州ルンビ県のコミュニティにて]

未来創造

8月22日(土)14:00～

ログイン・準備：13:30～

参加無料

日本マラウイ協会主催
マラウイを語る

オンラインの集い 2020

毎年夏に開催してまいりました「マラウイを語る集い」（シマを食べる会）は、本年、8月22日の午後にオンラインで開催する運びとなりました。直接お会いしてシマを食べることはできませんが、皆さま、充実したひとときに、ご参加ください！



マラウイを語る集い（シマを食べる会）は、マラウイを知る人、経験した人、興味のある人、マラウイ出身者が集って語り、音楽、スポーツ、食といったマラウイの多面性を提供し、体感型「ワンデー・テーマパーク」として機能してきました。本年のテーマは「未来創造」。マラウイから帰国した協力隊隊員、在日マラウイ人留学生、マラウイと交流する日本人学生、そしてNPOの若い方たちと未来に焦点を当てたセッションを準備しています。マラウイの今日の報告、文化・スポーツのセッションなどなど、ワクワクする内容が満載です。当然、インターネットが使えれば世界中どこからでも参加できます。参加料は無料です。ぜひ、ご参加ください！

開催概要

名称	マラウイを語るオンラインの集い2020
日時	2020年8月22日（土）14:00～17:00
テーマ	未来創造
主催	日本マラウイ協会
共催（予定）	駐日マラウイ共和国大使館 公益社団法人青年海外協力協会
参加料	無料（事前登録をお願いします）
参加登録	https://japan-malawi2020.peatix.com/view

プログラム（案）

13:30～14:00	ログイン・準備
14:00～14:25	オープニングセッション（「今日のマラウイ」他）
14:30～15:10	若者セッション（帰国隊員、在日マラウイ人留学生、大学生、NPO他）
15:15～15:45	スポーツとコロナ（A-GOALプロジェクト紹介）
15:45～16:15	フリータイム（発表者プレゼン）
16:15～16:45	文化・スポーツコーナー
16:45～17:00	参加者紹介

プログラム内容は予告なく変更されます。

Zoomで参加いただきます

参加登録された方は、現在広く利用されているZoomを使ってビデオ会議に参加いただけます。開始30分前から接続できますので、ご準備ください。

YouTubeへも配信予定です

広く一般向けにYouTubeでも配信する予定です。配信URLは案内ページでお知らせします。

準備するもの

いずれかの端末



そして、イヤホン（またはヘッドセット）

通信：WiFiなど

スマートフォンのモバイルネットワーク（4G等）でも閲覧できますが、長時間視聴しますので、契約されているデータ量を消費することになります。利用量の制限のない有線のインターネット回線、または、無料のWiFiで参加されることをお勧めします。



開催案内
Announcement



<https://www.japan-malawi.org/forum/2020>

<https://japan-malawi2020.peatix.com/view>



参加登録
Registration